

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
2【かかわる】	⑪【ボランティア】他の人や地域社会に役立つことを自分から進んで実践し、共に協力することの大切さを実感する。	総合的な学習の時間

【題材】

- 1 被災地（野田村）訪問
- 2 被災地中学校（田野畑中学校）との4校交流

【対象】

- 1 第3学年生徒（14名）
- 2 全学年（42名）

【実践の概要・詳細】

- 1 被災地（野田村）訪問【10月4日】

（1）ねらい

被災地の今を知り、肌で感じることで、思いやり（共に生きる）の気持ちを育てる。

- ①（主）復興現状を実際に見聞きして感じさせ、考える機会とする。
- ②（副）今現在で、自分達が被災地のためにできることを実践する。

（2）設定理由

本校生徒会は、東日本大震災発生後、すぐに『心を伝えるプロジェクト』を立ち上げ、江中農園で育てた農作物を支援物資として被災地に送ったり、修学旅行先や宿泊研で募金活動を行ったり、沿岸被災地の中学校との交流に取り組むなどしてきた。今年度も『心を伝えるプロジェクト』を継続して取り組むが、東日本大震災から3年経った今、メディア等での報道も減り、被災地の現状を十分に理解・把握できていないのが現状であった。

そこで、今回、野田村を訪問し、被災地の現状と復興の状況を自分たちの目と耳で確かめ、被災地の人々に寄り添った支援活動をしていくための学習の機会としたいと考えた。

（3）内容（見学地）

- ・道の駅のだ（概要説明）
- ・野田中学校（仮設住宅120戸）
- ・城内地区高台（移転地造成工事）
- ・十府ヶ浦海岸（被災防波堤）
- ・野田塩工房（製塩工房見学）
- ・仮設店舗（昼食等）



●野田中学校の屋上で野田村を一望しながら、藤岡校長から野田中生の様々な取組を伺いました。



●仮設住宅を訪問。住んでいる被災者の方に「江中農園」で育てたジャガイモやカボチャを届けました。



●高台の造成地、住宅を見学。大型のトラックがひっきりなしに行き交う状況に復興の現状を確認しました。



●津波によって破壊された防波堤、そして3重構造の防波堤の建設現場を見学。

(4) 生徒の感想

- ・何年先のことは分からないけど、岩手を支える世代として、頑張る東北を支えていきたいと思いました。
- ・今、自分たちができることは何かないのか、誰かの役に立ちたい。今回の研修でそう思うようになりました。
- ・被災された皆さんが元気になれるようなことを、これから少しずつ行っていきたいと思いました。

2 被災地中学校（田野畑中学校）との4校交流

(1) ねらい

復興教育では、実践的取組を通して「いきる」「かかわる」「そなえる」の3つの教育的価値を育むこととなるが、被害の少なかった葛巻町として「かかわる」ことを大切にしたい取組とする。

大きな被害を受けた中学生と互いに顔を合わせ、復興を担う世代として、共に元気になる、共に未来を築きたいという思いを伝えることで、「故郷を思う心」「他人を思いやる心」「自主・自立的な心」を養う。

(2) 内容

- | | |
|--------------------|------------------|
| ① 葛巻町教育委員会教育長あいさつ | ④ 感想発表（町内3校） |
| ② 歓迎の言葉（葛巻中学校生徒会長） | ⑤ 全体合唱「翼をください」 |
| ③ 4校交流（各中学校の発表） | ⑥ 田野畑中学校から（生徒会長） |



【小屋瀬中】学校紹介と合唱を披露



【葛巻中】神楽と合唱を披露



【江刈中】合唱「希望という名の花を」



【江刈中】学校農園の作物を贈呈



【田野畑中】迫力の復興太鼓



最後はハイタッチでお別れ

閉会のあいさつ（江刈中学校生徒会長）

限られた時間でしたが、4校が共に過ごすことができたことを喜び合いたいと思います。私たちは先週、野田村を訪れ、震災から2年半が経つのに、まだまだ苦しい生活をしている人達がいることを知りました。中学生が野田村を元気にするための様々な活動を行っていることを知り、私たちも復興のためにできることが沢山あることが分かりました。今日の交流会を心に焼き付けて4校の「絆」を確認し今後の飛躍につなげていきましょう。

【まとめ】

実際に見聞きし、共に時間を共有する体験は、確実に生徒の心に「復興への思い」を強めることにつながっている。今後も内容を検討しながら、取組を継続していきたい。

プロジェクトを通して、早く復興できるように貢献したいと思えるようになった。「笑顔」「心を込めて」「自分勝手な支援にならないように」の3つを大切に、これからもずっと続けていきたいです。

（第3学年・女子）